

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895  
FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

### 労働者の手取り停滞の真因は社会保険料の増大にある 小林俊介（みずほ証券チーフエコノミスト）

- 日本の労働者が豊かになれない要因を、低い労働生産性に求める言説がはびこってきた。だが、日本のマンパワー当たり労働生産性は、2000年から23年の間に16.8%改善している。つまり、生産性の改善をほぼ全て、他の要因が相殺してしまったということだ。
- 労働者が豊かになれなかった真因は、大きい順に、①税・社会保険料負担の増加、②交易条件の悪化、③労働分配率の停滞である。税・社会保険料負担の増加では、将来世代の再生産性を抑制してしまう現役世代の税・社会保険料負担の抑制は急務だ。
- 交易条件の悪化は、11年の原子力発電所の停止・廃炉に伴うエネルギー自給率の低下や、研究開発費の低迷などを背景とした輸出価格の伸び悩みが原因だ。労働分配率の停滞は、株主資本主義の進展に伴い、日本経済の実力に比して株主還元への要求が過大だった結果である。健全な賃金交渉の復活により、労働分配率を維持・向上させる必要がある。  
(参考:「週刊ダイヤモンド」2025年3月22日号)

## ワンポイントアドバイス

### 脱JTC目指して「青い鳥」探し（社内起業家ブーム）

- 新規事業の開拓や人材引き留めを目指し、日本の伝統的な大企業で社内起業制度の導入が相次いでいる。近年は保守的な面へやゆの意味を込めて「JTC（ジャパニーズ・トラディショナル・カンパニー）」と呼ばれることもある伝統的な日本企業。なぜ今、制度の導入が相次いでいるのか。背景には、急速な環境変化に事業と組織の両面で対応しなければならないという脱JTCに向けた危機感がある。
- もはや同業他社だけがライバルではなくなっている中で、今までの延長線ではない新しいやり方で新規事業を開拓する必要がでてきたのだ。伝統的な企業ほど縦割り意識が強く、イノベーションが生じにくい。そこで、社内起業制度の導入に際しては、年次や担当業務は問わない形として、組織の活性化につなげようとするケースが多い。
- 10年代半ばから大企業とスタートアップ企業のオープンイノベーションが流行した。社内起業家を育成できるようになれば、外部にリソースを求めずとも社内に「青い鳥」を見いだせるかも知れない。

(参考:「日経ビジネス」2025年2月10日号)

## 人事労務について

### リスキリング・スキルアップの目的

- 新しいスキルの修得に当たり個人がまず考えるべきは、「今の自分がそれを身に付けることで何が起こるのか」だ。昨今、リスキリングやスキルアップというと、学ぶこと自体に焦点が当たりがちだが、「そのスキルは仕事の中でどう評価されるのか」が明らかになっていなければ、ただ身に付けるだけで終わってしまう。
- 例えば、現在勤務する企業で働き続ける前提のリスキリングなら、周りの人が持つスキルとの組み合わせや自身の職務の中で生かしていく道までの合意形成が必要だ。貴重な時間を割くより前、学び始める前に、スキルを評価する仕組みの有無を点検しておきたい。
- よって、経営層が最初にやるべきことは、学ぶことの体系化ではなく、評価の体系化だ。「当社が評価するのはこういうスキルです。自分も学びます。皆さんも学んでください」という順番で進めていくことになるが、現在それができている企業はほとんどない。

(参考:「週刊東洋経済」2025年3月8日号)

## 古典に学ぶ

### 仏教の教えを学び始めれば悟りへとたどり着ける

- 「船に乗り込めば、必ず目的地に着ける」。ただし、早く結果を出そうと焦ったり、物事を効率よく進めようと慌てたりする必要はありません。大切なのは、急いで何かをやることではなく早くスタートすることです。
- 仏教では、彼岸へ渡る船に乗り込みさえすれば、自然に目的地に着くと考えます。つまり、仏の教えを学び始めれば、おのずと悟りへとたどり着けるのです。ですから、一日でも早く船に乗れば、それだけ安心して人生という川を渡っていけるというわけです。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)